

説教要旨「主よ、御心ならば」

ルカによる福音書5章12～16節

「御意(みこころ)ならば、我を潔くなし給ふを得ん」。「わが意(こころ)なり、潔くなれ」。(文語訳)

重い病を患う人が「御心ならば」と訴えたのに対して、イエス様は、「それが私の心だ」とお答えになったのです。簡潔なやり取りです。しかし、この短い対話の背後に、ユダヤの民の長い歴史が横たわっています。神から与えられた律法によって生きようとしたユダヤの民の歴史が、このわずかな言葉と振る舞いによって、乗り越えられているのです。

自分からは人に近づくことができず、むしろ、自分から他者を遠ざけなければならなかった人が、イエス様を見て自ら近づいたのです。本来ならば近づくことなどできない方の前にひれ伏し「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と願うのです。

イエス様はこの人に手をさしのべて言われました。「よろしい、きよくなれ」。イエス様の意志、御心によって癒しが起こります。汚れた者との接触はとりもなおさず、その汚れを自身の身に受けることを意味します。汚れに触れた者もまた汚されたものとされるのです。しかしイエス様は少しも躊躇することなく、むしろそれが私の心だ、そのために私は出て来た、と言いながら、律法の呪いのもとにある者を深く憐れんで、その呪いを自らの身に引き受けられたのです。

イエス様は、私たちに手を差し伸べ、私たちに触れて、私たちの罪と汚れを御自身に引き受けてくださいます。そして、私たちが清い者、罪のない者として、神の御前に立たせてくださるのです。イエス様は、人々に歓迎される奇跡行者としてではなく、十字架の救い主、苦難の僕としての道を進んで行かれます。十字架にかかり、私たちの罪を贖い、死人の中からよみがえって、神に生きる命の道を切り開いてくださった救い主。この方の御手に触れられ、差し出された救いにあずかって、私たちが主に従う者たちの群れの中に加えられました。そして、主の救いの証しのため、祝福と共に送り出され、共に歩んで参りましょう。

(2018・6・24 説教者：稲垣真実)